

# 石油開発事業

OIL EXPLORATION AND PRODUCTION BUSINESS

半世紀にわたる原油開発の実績に加え、中東産油国との信頼関係を基盤とし、事業の拡大に取り組みます。



コスモエネルギー開発株式会社  
代表取締役社長  
西 克司



## 事業概要

石油開発事業は、グループ事業ポートフォリオの中でも収益の柱であり、長年信頼関係を築いてきたアラブ首長国連邦(UAE) アブダビ首長国やカタール国を中心とする中東地域をコアエリアとして、既存権益鉱区での安全・安定操業を進めています。

## 2021年度実績・2022年度見通しについて

2021年度は販売数量が減少となった一方で、原油価格の上昇の影響(2021年1月~12月におけるドバイ原油価格69\$/バレル・前年比+27\$/バレル)により経常利益は448億円(前年比+309億円)となりました。

2022年度は前期を大きく上回る原油価格の上昇の影響(2021年11月-2022年10月におけるドバイ原油価格前提95\$/バレル・前年比+26\$/バレル)により、経常利益は750億円(前年比+302億円)を見込んでいます。

## 経常利益



## 原油生産数量\*



\*生産数量は主要開発会社であるアブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発の合計

## 識別したリスク

- 原油価格および生産に関するリスク
- 脱化石燃料に伴う座礁資産化リスク
- 油田や生産設備の事故リスク
- 探鉱・開発に関するリスク

## 機会

- 脱炭素化への移行期間におけるエネルギー安定供給の実現
- CCS/CCUSの世界的な技術進展、普及への期待
- 産油国との脱炭素分野での協業の可能性

## 強み

- 50年以上にわたる産油国との信頼関係
- 競争力の高い油田を保有
- 油田操業で培った技術やノウハウ

## 事業戦略

石油開発事業では、①世界的な需給動向や産油国および周辺地域における政情不安による原油価格変動リスク、②脱化石燃料に伴う油田をはじめとした保有資産の座礁資産化リスク、③操業に伴う油田や生産設備における事故リスク、④新鉱区において商業生産可能な規模の資源が発掘できないリスクといった主に4つのリスクを認識しています。

脱炭素化への移行期間において市場からエネルギーの安定供給を強く求められていることが事業環境における機会といえます。2022年3月にはアブダビ国営石油会社(以下、「ADNOC」)とCCS/CCUSなど脱炭素分野での協業検討に関する覚書を締結しました。今後ADNOCと共同で調査・検討を行っていく予定です。

UAE建国以前から50年以上にわたり、アブダビ首長国と親密な信頼関係を維持していることが当社グループ最大の強みです。2021年には海上の新鉱区であるOffshore Block4を取得しました。新鉱区は当社グループ会社であるアブダビ石油が保有する油田に隣接しており、生産・貯蔵・出荷施設を共同で活用することで開発・操業コストの低減を含めたシナジー創出が見込まれます。新鉱区を含め当社グループが保有している油田は浅海に位置していることから操業コストを抑えることができ、競争力が高いのが特長です。当社グループはアブダビ首長国をはじめとする産油国での長年にわたる自社操業で培った技術力とノウハウを有しています。



**競争優位性**

**アブダビ首長国との強固な関係性を維持**

当社グループのアブダビ石油とアラブ首長国連邦 (UAE) アブダビ首長国との関係は、UAE建国以前の1967年までさかのぼり、55年間にわたる強固な信頼関係を築いています。当社グループはアブダビ首長国においてADNOCと協業し、安全で安定的な原油開発を実施してきました。

2022年1月にはコスモエネルギーホールディングスとマスタール社\*が脱炭素分野における協業検討に関する覚書を締結しました。前頁に記載したアブダビ首長国の海上探鉱区であるOffshore Block4の取得、ADNOCとのCCS/CCUSなど脱炭素分野での協業検討に関する覚書の締結を含め、これらはアブダビ首長国ならびにADNOCから信頼できるパートナーとして高く評価されている証といえます。これからもアブダビ首長国にとって当社グループが友好的かつ信頼されるパートナーであり続けるよう努力していきます。

\*マスタール社: Abu Dhabi Future Energy Company PJSC - Masdar  
アブダビ首長国の再生可能エネルギー企業であり、地球規模の持続可能性の課題に取り組むために、再生可能エネルギー、持続可能な都市開発、ならびにクリーン技術の商業化および展開を進めています。  
アブダビ政府の戦略投資会社、Mubadala Investment Companyの完全子会社であり、世界のエネルギー部門におけるUAEのリーダーシップを維持する一方で、将来の世代の利益のために、UAEの経済とエネルギー源の両方の多様化を支援することを目的としています。  
UAE、ヨルダン、サウジアラビア、モリタニア、エジプト、モロッコ、英国、米国、オーストラリア、セルビア、インド、インドネシア、ウズベキスタンなど約40か国で事業展開しています。

**CCS/CCUSに関するアドバンテージ**

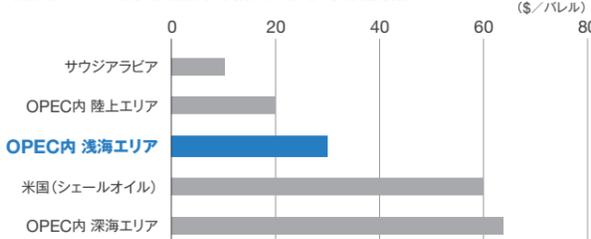
CCS/CCUSにおける当社グループの強みは、2001年5月に達成した「ゼロフレア化」に伴う随伴ガス圧入経験など、CCS/CCUSとの親和性が高い石油開発分野の技術とノウハウを

**自社操業による競争力の高い油田**

当社グループが石油の探鉱・開発・生産をしているエリアは浅海に位置する在来型油田となっており、大水深油田やシェールオイルに代表される非在来型油田と比較して操業コストが低く、競争力が優れています。また、当社グループは産油国においてオペレーター\*として石油の探鉱・開発・生産を実施してきました。そのため油田操業に関する技術やノウハウ、経験を蓄積しています。当社グループの石油開発部門は、原油価格が低迷した2016年度および2020年度においても、セグメント経常利益は黒字を確保しています。

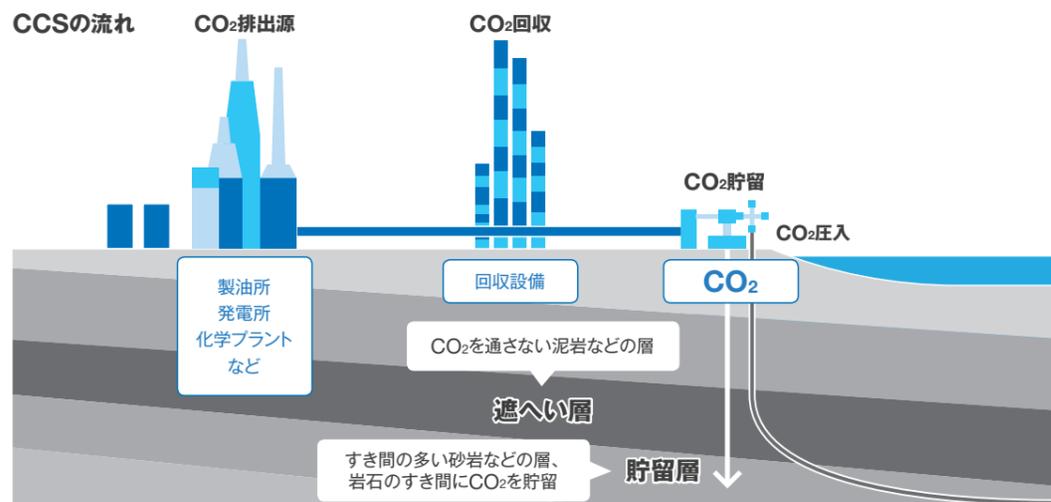
\*オペレーター: 出資だけでなくプロジェクトの計画立案および実際の探鉱・開発作業遂行の中核的な役割を担う企業

**開発エリア別・損益分岐点となる原油価格**



\*外部調査機関の資料に基づき作成。生産コストは油田毎に異なる

持っていることです。今後はADNOCと共同でアブダビ首長国におけるCCS/CCUSの実行可能性について調査を行ってまいります。



**中計の取り組みと成果**

**ヘイル油田+既存油田による安定生産・操業コスト低減**

石油開発部門では第6次連結中期経営計画において「強みを生かし付加価値が得られる案件を志向」し、長期的視点から事業戦略を検討してきました。本中計期間には、ヘイル油田および既存油田による安定生産を実施し、また操業コストの削減に取り組んできました。世界は脱炭素化へ向けて加速していますが、化石燃料から脱炭素燃料への移行は一足飛びにはいきませんが、技術や法制度の発展、需要の変化と足並みを合わせながらエネルギーを安定供給することがエネルギー会社である当社グループの社会的責任だと考えています。コスモエネルギー開発はこれからも時代に合わせてエネルギーセキュリティ上必要とされるエネルギーを供給し続けます。

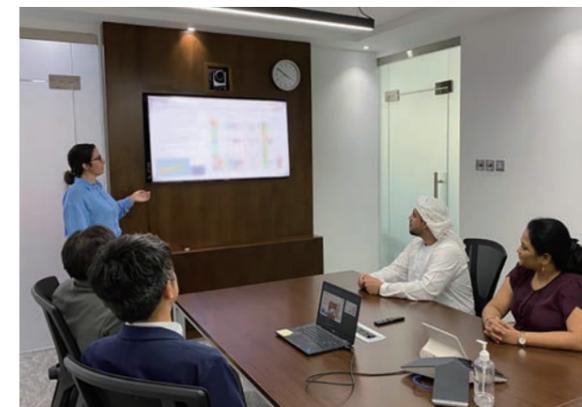


**新鉱区Offshore Block4の獲得と探鉱開始**

長期安定供給を実現するために、コスモエネルギー開発はアブダビ首長国海上の探鉱区であるOffshore Block4 (以下「本鉱区」) を取得しました。本鉱区落札の背景としては、当社グループがアブダビ首長国で築き上げてきた強固な信頼関係や長年の操業実績などが評価されたものと考えています。本鉱区の探鉱作業を開始するにあたり、新たにCosmo E&P Albahriya Limitedを設立しました。また本鉱区における探鉱

事業については、JOGMEC\*の探鉱事業出資制度の採択を受け、出資基本契約証書を締結しました。本鉱区は当社グループのアブダビ石油が保有する油田に隣接しており、開発・生産に至る場合は生産・貯蔵・出荷施設を共同利用することで開発・操業コストを最小化し、両社のシナジーを最大化しようものと見込んでいます。

\*JOGMEC: 独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構



**脱炭素化に向けてADNOCとの共同調査を開始**

2022年3月2日、ADNOCと脱炭素化に貢献する技術の模索およびアブダビ首長国におけるCCU/CCUSの実行可能性を評価するための共同調査を開始することに合意し、覚書を締

結しました。脱炭素化社会の実現に向けて、新たな取り組みの事業性評価ならびに知識の習得、協業機会の創出に取り組んでいきます。